

## ●競争力のある地域経済社会の再構築

○東アジア等との競争・連携による国際競争力の強化

新規着手

山陰地方の中央に位置する境港は、背後圏に製紙、木材加工、鉄鋼等、多くの企業が立地し、原材料の輸入や製品の輸出等を通じ、地域の経済活動を支えています。

近年、山陰地方初となるリサイクルポートの指定(平成23年1月)、日本海の対岸諸国(韓国、ロシア等)の経済成長とトライアル輸送の成功等を通じ、今後の環日本海交流の発展を期待した電子部品、電気自動車工場等の新たな企業進出が相次いでおり、多様な貨物の増加が見込まれています。加えて、日本海側拠点港の選定(平成23年11月)を契機とした、更なる利便性向上のための取組みの促進も期待されています。

しかしながら、貨物量の増加や船舶大型化に伴い、大型岸壁やふ頭用地の不足等の問題が顕在化してきており、非効率な輸送の解消が喫緊の課題となっています。

そのため、外港中野地区に、3万トン級の大型船に対応した国際物流ターミナルを整備するとともに、既存ふ頭の再編を行うことで、境港全体の機能強化を図ります。



## 期待される整備効果

本事業により、将来増加する多様な貨物の取扱を円滑に行うことが可能となるとともに、利用企業の物流コストの削減が図られること等を通じ、地域産業の競争力強化、雇用の確保等に寄与します。

また、日本海側の物流機能が強化されることで、大規模地震等の被災リスクの高い瀬戸内・太平洋側地域のリダンダンシーの確保、粘り強い国土軸の形成に寄与することが期待されます。